

被災者台帳システムにおける
「セキュリティ」確保のための機能検討

- 報告書 -

2012年12月

1.1.1 ユーザーロール管理

り災証明発行ツール、被災者台帳管理ツールを利用するユーザー、ロール、実行機能の制限や設定を行う機能です。詳細には、ユーザーの設定、ロールの設定、機能権限の設定を行う機能があります。

本機能で設定されたユーザーのみ、り災証明発行ツール/被災者台帳管理ツールへログインし利用することができます。また、ロールの設定と機能権限の設定を組み合わせ設定することにより、り災証明発行時の調査結果修正や世帯分離、被災者台帳でのデータエクスポートを制限するために本機能を利用します。

1.1.1.1 ユーザー情報一覧

り災証明発行ツール、被災者台帳管理ツールを利用するユーザーを登録、編集、削除などを行う機能です。

画面から1ユーザーごとに入力して登録できるほか、予め指定フォーマットで準備したリスト(CSVファイル)から一括登録することが可能です。

1.1.1.2 ロール情報一覧

り災証明発行ツール、被災者台帳管理ツールを利用するロールの登録、削除などを行う機能です。

画面から1ロールごとに入力して登録できるほか、予め指定フォーマットで準備したリスト(CSVファイル)から一括登録することが可能です。

1.1.1.3 機能権限一覧

ロールに対応して、各機能の実行権限を設定する機能です。ロールに対応する各機能がチェックボックスがオンにされた状態で、その機能を実行することが可能です。

ユーザー、ロール、各機能を制限を設定する例を、次表に示します。

例では、

- ロールの割り当てがされていないユーザー (user1～user3) は、機能制限に挙げられている各機能は使うことができず、り災証明発行を窓口で行うユーザーのための設定です。
- 主査クラスのロールが割り当てされたユーザー(user20)は、調査結果修正の権限を与えています。り災証明発行時に、調査結果(被害判定結果)を修正することができるユーザーのための設定です。
- 課長クラスのロールが割り当てされてユーザー(user30)は、調査結果修正、

世帯分離の権限を与えています。り災証明発行時に、調査結果（被害判定結果）の修正や、世帯分離をして発行することができるユーザーのための設定です。

- 管理のロールが割り当てられてユーザー(user30)は、すべての機能を実行できる権限を与えています。り災証明発行時に、調査結果（被害判定結果）の修正や、世帯分離をして発行することができるほか、被災者台帳管理でデータをエクスポートすることができるユーザーのための設定です。

表 - ユーザー、ロール、機能制限の設定例

ユーザー名	ロール名	機能制限		
		調査結果修正	世帯分離	データエクスポート
user1	なし	-	-	-
user2	なし	-	-	-
user3	なし	-	-	-
user20	主査クラス	○	×	×
user30	課長クラス	○	○	×
admin1	管理	○	○	○

- : 割り当てなし

○ : チェックボックスがチェックされた状態

× : チェックボックスが外れた状態

1.2 機能別操作方法

り災証明管理ツールの機能別操作方法について記載します。

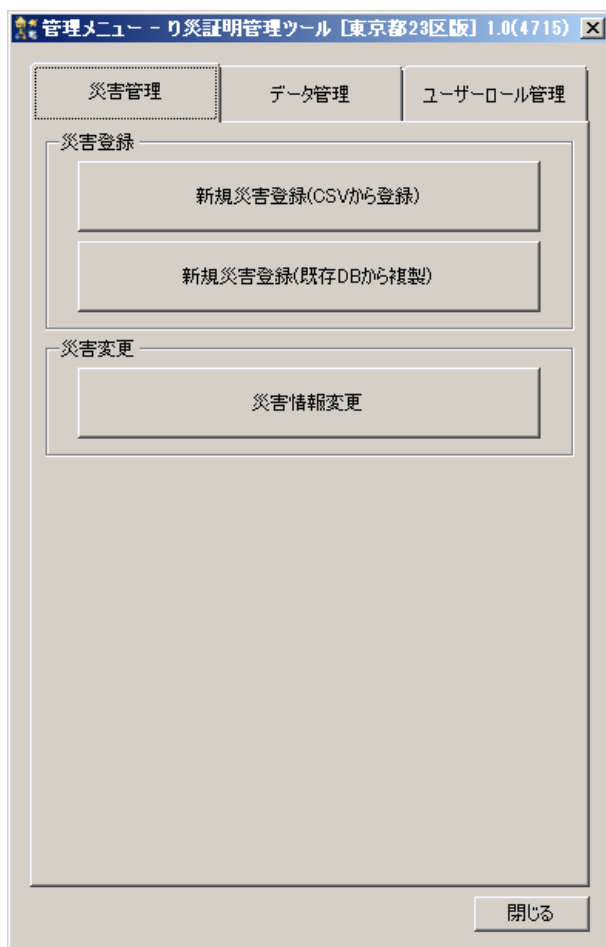
1.2.1 画面構成

り災証明管理ツールの操作画面は、大きくログイン画面と、各機能へアクセスするための管理メニュー画面から構成されています。

(1) ログイン画面



(2) 管理メニュー画面



1.2.2 起動

デスクトップ上のショートカットなどから、り災証明管理ツールを起動します。



1.2.3 認証

表示される[ログイン]画面で、サーバー名を確認し、[ログイン]ボタンをクリックします。正常に認証が出来た場合には、管理メニュー画面に切り替わります。データベース接続環境が正しく設定されていない場合には、エラーメッセージが表示されます。

